

IT人材の育成

先日、日本最大級のポータルサイトを運営する「Yahoo」が、IT分野の技術者育成に参入すると報道がありました。プログラミングなどのITエンジニアのスキルやノウハウをオンラインで1日に2～3時間の学習を4カ月で行い、未経験者でもエンジニアとして即戦力で働くことができるレベルにまで育成するとのこと。



これは、デジタル化が急速に拡大する社会にあって、2030年には最大79万人もIT人材が不足すると予想されていることが背景にあり、現在、**IT関連企業の人材育成支援の動き**は、どんどん広がっています。

本校の情報技術科は、3年間で約1200時間以上をかけてIT分野の学びを行います。民間企業の学び約360時間の4倍近い時間となります。だからこそ、**何を学んだか、何が身についたか、何ができるようになったのか**は大切なことです。あら工で学んでいる知識・技術は、社会の課題を解決する新しい価値の創造につながり、社会を豊かにすることにつながります。

本校には「A-FUNS」があります。先端企業や専門学校からスキルやノウハウを学ぶ機会があります。その学びをスルーしてしまうことは「もったいない」と思いませんか。日本電子専門学校の大川先生が指導する「**スマホアプリの製作体験**」を**第2弾放課後コンテンツ**として実施します。スマホアプリの作り方を知っていれば、色々なことに活用ができますよね。

新しい商品、新しい仕組み、新しい学びは、皆さんの未来を大きく変える可能性があります。**12月13日・20日の2日間、全日制・定時制を問わず参加者を募集しています。**是非、参加して未来の成長した自分に会いにいきましょう。



ぶらり、あらこう散歩

週末に島根県情報科学高校に視察に行ってきました。電車で東京から日本一遠いとされる安木（やすき）市にある学校で、学年100名程度。視察したのは「ITフェア」で、島根県や安木市が推進している情報科やIT企業誘致を活用し、学校もIT企業と連携。生徒たちは、自分たちの興味関心に基づき学年や学科の壁を越えてエントリー。**企業の技術発表や受付などを新入社員さんながらに担当。**これってインターンシップによく似ている。中でも気になったのが、「高齢者対象のスマートホン教室」のブース。事前準備では、**企業の方にホスピタリティの指導受けた生徒**が先生相手に真剣に説明。**恥ずかしがることなく一生懸命な姿**を清々しく感じた。本番でも、多くの地域の高齢者対象に「どうしたら伝わるか」を真剣に考えて説明。高校生の力を「凄い」と感じずにはいられなかった。荒川工業にも同じようにパワーをもった生徒が沢山いる。**今週末には定時制生徒が地域の小学生対象「電子提灯づくり」で力を発揮する。**期待でいっぱい。



「未来を創る！彩る！荒川工業」